

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成24年度委託事業完了報告書

【推進校】

| | | | |
|------|-----|----|----|
| 道府県名 | 山口県 | 番号 | 18 |
|------|-----|----|----|

| | | | |
|------|--------------|------|----------|
| 推進校名 | 山口県下関市立豊東小学校 | 研究主題 | I・II・IV型 |
|------|--------------|------|----------|

○ 推進校として実施した研究内容

1. 重点課題への取組状況

本校では、研修主題を「生き生きと活動し、学び合い、認め合う子どもの育成～かかわり合いのある授業づくりを通して～」とし、子どもたちが、温かな学級集団において、心を伝え合い、思いを聞き合うなかで、思考力や表現力を育成するための授業づくりに取り組んでいる。

(1) 基礎基本の習得と定着

〈すぐに見えるように各学年に常備した支援プログラム〉

- ・学年の実態に応じて、「やまぐち学習支援プログラム」（山口県教育委員会作成、WEBから問題をダウンロードし利用できる）を課題の補充や発展問題等で積極的に活用した。また、校内の研究推進委員会で上記問題の結果を分析し、子どもの学力状況を把握して課題解決の手だてを協議した。



- ・毎週水曜日5校時終了後に「スキルタイム」を20分間設け、「やまぐち学習支援プログラム」を活用して、漢字の読み書きや計算など学級や個別の課題に応じた問題に取り組み、基礎基本の定着を図るようにした。

- ・毎週月・金曜日の朝の時間（10分間）に「読書の時間」を設け、読解力向上のための手だてとして、本に親しみ、読書をする習慣を身に付けるようにしている。今年度は、新たな取組として、「読書通帳」を始め、読んだ本とページ数を記録することによって、読書意欲の向上を図った。

〈読書通帳「読書の時間」〉



(2) 主体的に学ぶ「かかわり合いのある授業」づくり

- ・毎週火・水・木曜日、1校時開始前の朝の時間に、話し合い活動「きらめきタイム」を15分間設定している。「きらめきタイム」では、聞く力・話す力の育成をめざすとともに、子ども同士の相互理解を促し

〈朝の話し合い活動「きらめきタイム」〉



たり人間関係を築いたりするなど、学びの基盤づくりに努めた。

- ・学習効果を高めるために、それぞれの学習内容に応じて、ペア学習やグループ学習、一斉学習など、子ども同士のかかわり合いを重視して授業づくりを進めていった。そこでは素直に意見を伝え合いながら、考えを広げたり、深めたりするようにした。

(3) 書く活動の充実

- ・「聞くこと」や「話すこと」に加え、「書くこと」を取り入れた授業づくりを行った。まず、一人学びで、自分の考えをノートにまとめる場面を設定し、話し合いでは、ノートにまとめたことをもとにして発言するようにした。また、自分の問題解決に向けて、友達の意見をよく聞くように促した。そして聞き合いの後、ノートに気づいたことや友達の考えのよさ、考えが深まったことなどをふりかえりながら書くようにした。

〈一人学びによるノートづくり〉



2. 基礎学力の把握・検証

(1) 学力調査等と活用した学力分析

- ・「やまぐち学習支援プログラム」を活用して各学年の「国語科」の学力を分析した。それぞれ本校と県平均（正答率：％）の比較をして、成果や課題について全職員で協議して共通理解を図った。
- ・一人学びでノートに自分の考えをまとめ、そして話し合いに臨むことによって、子どもたちの「書くこと」への興味・関心が深まり、学び合いの活性化やノートまとめによって考えの深まりが見られた。その結果、2学期末に実施した「やまぐち学習支援プログラム学力定着状況確認問題」では、全ての学年で「書くこと」の領域が伸びていることが確認できた。

「やまぐち学習支援プログラム1学期末評価問題」

| 1学期 | 3年 | | 4年 | | 5年 | | 6年 | |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 本校 | 県 | 本校 | 県 | 本校 | 県 | 本校 | 県 |
| 話す・聞く | | | 72 | 73 | 73 | 78 | 60 | 66 |
| 書く | 80 | 72 | 74 | 74 | 63 | 63 | | |
| 読む | 69 | 67 | 82 | 76 | 67 | 71 | 60 | 68 |
| 言語 | 52 | 54 | 94 | 73 | 72 | 78 | 54 | 64 |
| 全体 | 60 | 60 | 82 | 72 | 68 | 72 | 58 | 60 |

「やまぐち学習支援プログラム学力定着状況確認問題」

| 2学期 | 3年 | | 4年 | | 5年 | | 6年 | |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| | 本校 | 県 | 本校 | 県 | 本校 | 県 | 本校 | 県 |
| 話す・聞く | 78 | 70 | 96 | 86 | 54 | 47 | 87 | 86 |
| 書く | 66 | 52 | 76 | 67 | 44 | 34 | 81 | 75 |
| 読む | 77 | 78 | 74 | 75 | 71 | 68 | 68 | 72 |
| 言語 | 63 | 59 | 91 | 79 | 57 | 62 | 56 | 60 |
| 全体 | 60 | 67 | 82 | 76 | 62 | 58 | 58 | 71 |

(2) 主体的に学ぶ「かかわり合いのある授業」づくりを通して

- ・「きらめきタイム」を活用し、聞く力・話す力の育成をめざして取り組んできた。その結果、「聞くこと・話すこと」の力が着実に伸びた。また、子どもたちは友達の話を聞く楽しさや友達に話を聞いてもらえる喜びを味わうとともに、授業における話し合いにおいても発言がつながるようになってきた。これまでの話し手の説明が一方通行で流れていく学習から、聞き手とのやりとりを行いながら理解を深めていく学習へと変わっていった。
- ・かかわり合いのある授業では、子ども同士が真剣に課題に取り組み、解決していこうとする姿が多く見られるようになった。聞き合い、学び合う授業では、子どもたちはみんなと一緒に考えることが楽しいと言い、学習への意欲の高まりも感じられるようになった。子ども同士の温かく真剣な話し合い、学び合いを軸にしたかかわり合いは、授業の活性化にもつながっていると考える。

<「きらめきタイム」6学年 児童アンケート（記述式）より>

- ・話すことに少し慣れてきた。「きらめきタイム」を始めてから授業中で発表することができるようになった。
- ・友達の話聞きながら自分の思いや考えと比べながら友達の話聞くようになった。
- ・おもしろい話題でもりあがったり悩みや疑問を話し合ったりすることができて、朝が楽しくなった。

- ・このように、話し方・聞き方に関する自分の力の伸びを実感している子どもや、話すことや聞くことの楽しさを味わうとともに、よさを実感している子どもが増えてきた。

<国語科 4学年 児童の「ふりかえり」のノートより>

- ・Aくんは、1人だけが考えだったけど、がんばって意見を言っていました。そして、それを助けたBくんも、がんばっていました。ぼくは、2人ともすごいなと思いました。
- ・話し合うときに、いろんな意見が出ていました。発表するのが楽しかったし、意見を聞くのもおもしろかったです。また、こんな話し合いをしたいです。
- ・段落をまとめることが、はじめはあまりわかりませんでした。けれど、みんながじょうずに意見を出し合っていたから、ぼくもだんだんわかってきました。
- ・自分の意見をみんなに知ってもらえてうれしかったです。みんなそれぞれ思っていることが少しずつちがうということがわかりました。

- ・子どもたちは、聞き合い、話し合いを通して、自分のものの見方や考え方を修正したり、関心を持続させたり、疑問や問いを捉えたりしている。また、友達の考えのよさに気づき、新しい視点を獲得することもできるようになっている。よって、かかわり合いながら学ぶことは、思考力を伸ばすことにつながるということがわかった。

(3) 「子どもたちの学ぶ姿勢」～児童のアンケート～から

<生活と学習についてのアンケート>

- ・「スキルタイム」で基礎基本の習得を図ることで、読み書き計算の力が伸びて子どもたちが自信を持つようになり、さらに意欲的に取り組むことができるようになった。
- ・読書が好きな子どもが多く、「読書通帳」の取組を境に、教室や図書室で読書をする子どもの姿が増えた。家庭でも読書をする子どもが増えつつある。読書量が増えたきっかけは、「偶然手に取った本が面白かったから」「読んでいくうちに楽しくなってきた」という返答があり、本にふれる機会をつくることも大切であると感じている。

| ☆ アンケート（児童） | 7月(%) | 2月(%) |
|------------------------|-------|-------|
| ア 学校の勉強は好きである。 | 81 | 87 |
| イ 宿題を忘れずにする。 | 75 | 80 |
| ウ 宿題以外の勉強もする。 | 74 | 78 |
| エ 家でも読書をする。 | 87 | 89 |
| オ テレビやゲームの時間が1時間以内である。 | 35 | 42 |

3. 今後の課題

- ・「読むこと」の領域の定着は十分とはいえないので、叙述に即して正しく読み取る力を身に付けることができるようにするために、教材分析や学習課題の設定及び発問の工夫等、授業改善を行う必要がある。
- ・「スキルタイム」を基礎学力の習得のための中核となる活動として充実させるために、学力調査等をもとに学年ごとに学力をきめ細かく分析するとともに、苦手な領域や定着が不十分な学習内容を把握し、子どもの現状と課題に沿った運営（内容や時間、回数等）を行わなければならない。
- ・「話す力・聞く力・書く力」を中心に、学年ごとに身に付けたい力を明確にし、系統的・組織的に達成できるように、全教員で共通理解して取り組まなければならない。